

取場の仲間を裏切り、本部「革マル」と密通した卑劣分子を絶対許さない!

議 支部代 第七回

八月一三日、動労千葉第七回支部代表者会議が開催された。会議は、惨たんたる状況を内外に露呈したまま終了した動労第三五回全国大会の情勢を切り拓いた原動力こそわれわれの動労千葉組織破壊攻撃に抗した七ヶ月間の不屈の団結力であり、動労の民主的改変を求めてやまぬ全国の良心的役員・活動家の決起であることを確認した。さらに、前進する動労大改変運動に背をむけ、「本部」―東京革マル

オ三五回全国大会 情勢と総括

第三五回全国大会が鮮明に指し示したものは、動労本部を革マル反動集団が私物化しているかぎり、動労の組織的・運動的発展は全く不可能であり、逆に動労運動の発展・組合民主主義確立を求める全国の良心的組合員のが動労千葉に続く決起は必然であり、動労大改変運動の勝利の展望は確実であるということである。

いまや動労大改変運動を圧殺せんとする「本部」革マル反動集団による機関運営、規約・規則無視のセクソト的・暴力的ひきまわしの誤った路線は、第三五回全国大会を前後して頂点に達したといえる。

「本部」反動革マル分子は「動労組織二八号」なるものをもって「七月九日定中委で、木皿・格和・竜崎は再建千葉の代議員に決定した」などというペテンをもって当局に泣訴し、動労千葉への弾圧を要請しつつ「再建千葉の代議員」狩り出し策動を行ってきたのである。

しかし、協約協定を口実に当局と一体となつて「組休」をデッチ上げておきながら、大会現地では「特別」傍聴、「特別」代議員として扱っている。ここに、国鉄当局と「親衛隊」反動革マル分子の癒着の実態が現われている。

動労改革運動の飛躍的前進、自称「動労型」労働運動の反動性・破綻を露呈

第三五回全国大会での総評榎枝議長、全交運吉岡議長の動労「本部」に対する痛烈な批判、秋田・仙台・水戸・宇都宮・新幹線・静岡・大阪・米子・福知山・四国・門司・鹿児島の一二地本の代議員による「千葉問題に関する全面修正動議」、良心的中執の抗議の総退陣、その結果による「片肺」「欠陥」の「新執行部」等々、どれ一つとっても「全国大会は成功した」といえる要素はない。全国大会は、組織内外で孤立化し、展望なき情況に突入した「本部」革マル反動集団の醜態をさらけ出したといえる。

合理化屈服路線をもって「当局の親衛隊」になり下がった「本部」革マル反動集団にとつて、今や、より露骨な権力・当局の尖兵化と全国的暴力路線の開花以外に動労私物化を維持する道はないのだ。

動労大改変の中心軸たるわが動労千葉に対するヤツ当りの攻撃は必至であることをガッチリと確認し全支部で反響の体制をさらに強固に確立しよう。以上の認識の上で立ち第七回支部代表者会議は当面つぎの具体的取組みを確認決定した。

当面する 取り組みを確認

1 佐倉・銚子支部の早期結成にむけ、オルグ活動をさらに活発化させる。とりわけ佐倉支部内有志の呼びかけによる「動労千葉への結集署名運動」を全体でバックアップする。同時に鉄労志向残存分子の一掃とその「本部」への逃げこみ策動を阻止する。銚子支部対策は八月二〇日の職場集会にむけて第四次オルグを実施する。

2 佐倉・銚子・新小岩・津田沼の「本部」―東京革マルと密通し、動労千葉破壊を策動する一部反動分子の徹底追及、一掃行動を強化する。

佐倉、銚子支部の早期結成へ、革マル密通・裏切分子の徹底追及・一掃を

3 動労大改変運動の全国的決起という新たな情勢に適應した組織体制を確立するものとして、各支部は、全組合員を対象とする総点検・対話行動を強化する。

4 各支部は組織的警戒心を高め、組織破壊策動の全実態(家庭オルグなど)をさらに密に把握する体制を強化し、本部に集中すること。

5 九月、動労千葉弁護団を結成し、弾圧・法廷対策の強化を計る。